

ごみ処理基本計画見直しの方向性（案）

京都市ごみ処理基本構想（平成10年5月）

- 建都1200年の伝統に培われたものを大切にするという価値観の復権
 - 高度な技能を集約 → 西陣織等
 - 一品を大切にし、そのものの価値を高める → 清水焼等
 - 自然との調和の中に暮らす生活術 → 京町屋等
- C O P 3 開催都市として地球温暖化防止に資する取組

持続可能な社会の実現

環境負荷の低減

天然資源
採取量の抑制

- 将来社会像
 - 「循環型社会経済システム」
+
「ポスト消費社会」
 - 「環境共生型都市・京都」の実現
【目標年次：2025年】
- 将来ごみ処理システム像
 - 発生抑制
 - 収集・処理
 - 埋立処分
 - ごみの発生・排出抑制の推進
 - 環境負荷の最小化、資源・エネルギー回収の最大化
 - 最終処分量の最小化、埋立物の安定化・無害化
- 市民・事業者・行政の役割
 - 市民
 - 事業者
 - 行政
 - 循環型社会をかたちづくる主役
 - 自己処理責任を認識した自主的取組の推進
 - 市民・事業者の自主的取組の自立を支援

1999年6月
(平成11年6月)
策定

⇒ 反映させるべき
主なできごと

循環基本法の制定
各種リサイクル法の制定
廃棄物の定義・区分の変更(検討中)
容り法・家電リ法の見直し

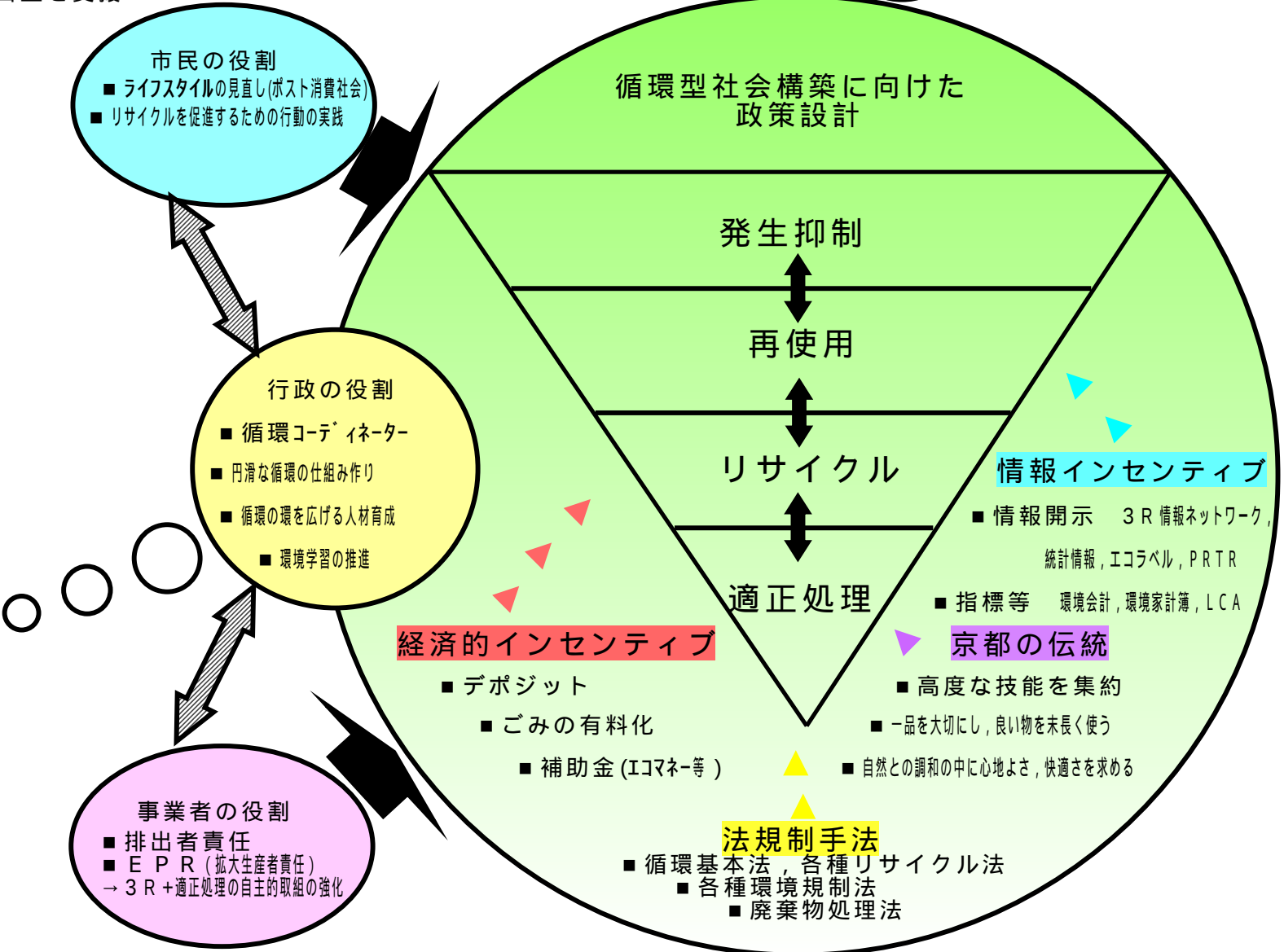
2003年10月
(平成15年10月)
策定予定

現行ごみ処理基本計画

- (見直しのポイント)
- 上流対策（発生抑制・再使用）の強化
 - 市民・事業者・行政の役割の見直し
 - 情報インセンティブと経済的インセンティブの検討
 - 物質循環を視野においた廃棄物処理システムの構築
 - 戦略的環境アセスメント（SEA）の試行的導入
 - P D C A サイクルによる進捗管理システムの検討
 - 不適正処理の防止（有害物質対策，不法投棄対策）

循環を基調としたまちづくり

新ごみ処理基本計画



(目標年次)
(2010年)

(2015年)